

屋久島農業普及だより

【編集発行】

屋久島事務所農業普及課農業普及係

屋久島町安房650 TEL: 0997-46-2236 FAX: 0997-46-3384

屋久島農林業の発展に向け、 皆様と共に普及，振興活動を取り組めます！



樋口 真一
農林普及課長

令和5年度農業普及係では、重点活動計画として①屋久島農業を支える担い手農家の育成，②サツマイモ基腐病低減対策の実証・普及の2課題を，全体活動計画として①次世代リーダーの確保・育成，②地域の特性を活かした産地育成，③6次化ビジネスモデルの育成の3課題を，農業者の皆様や関係機関団体と一緒に取り組んでまいります。コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行し，明るい兆しが見えてきています。かごしま未来創造ビジョンの「稼ぐ力」の向上を図るため，屋久島事務所農林普及課一丸となって，関係機関と連携し活動していきますので御協力をよろしくお願いします。



農業普及係



吉田真一
技術主幹兼農業普及係長
地域振興，経営
食育・地産地消
女性起業

新



新川裕樹（ひろき）
技術専門員
畜産，認定農業者
パソコン簿記，
農業制度資金



片山隆之
技術主査
茶，新規就農者
土壌肥料，GAP，
有機農業，農業情報

新



佐藤賀俊（よしとか）
技術主査
野菜・花・作物
スマート農業，
病虫害



下村正之
農業技師
果樹，
青年農業者育成，
農業気象



農村整備係



小野島英治
技術主幹兼農村整備係長
係の総括
新規事業計画
ストックマネジメント



笹原和隆
技術専門員
畑総鈴岳地区・屋久島
南部地区
水土里サークル活動
防災減災神山地区



藤井幸平
技術主査
中山間屋久地区
通作保全第三屋久島地
区
災害復旧指導



田中謙二
技術主幹兼林務係長
係の総括
狩猟・緑化推進

新



川畑祐樹（ゆうき）
技術専門員
森林整備
林業担い手対策

林務

屋久島の茶園における畑かん水の病害虫防除利用

1 はじめに

毎日の作業お疲れ様です。今年が一番茶は、昨年秋の高温により冬芽が大きく、更に、2～3月にかけて気温が高く推移したことから、3～5日程早いスタートになりました。夏茶は良質茶を基本に生産するとともに、来年の一番茶を見据えた樹勢のある茶園づくりに努めてください。

屋久島町では畑地かんがい整備が進んでおり、令和4年には永久保地区にて工事が完了しました。今年度、畑かん水を利用した病害虫防除を永久保地区の茶園にて実施しましたので、ご紹介します。

2 対象病害虫（チャノホソガ）

製茶品質に影響の大きい重要害虫です。二・三番茶期の発生が多く、被害も大きいです。三角巻葉内に虫糞を充満させ、製茶品質（水赤）を低下させます。



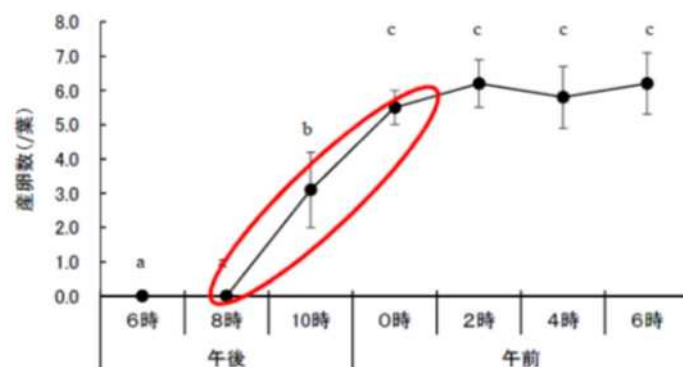
三角巻葉（中に虫糞を貯め、品質に影響する）



三角巻葉中の幼虫と虫糞

3 防除方法

チャノホソガの産卵は、午後8時～午前0時の夜間に重点的に行われます。産卵時間を重点的に、萌芽期～2葉期に1分散水5分停止の間断散水を行います。



各時刻帯におけるホソガ累積産卵数の推移

散水時間：午後7時～午前1時

4 調査

永久保地区で早生品種の「つゆひかり」と晩生品種の「おくみどり」で、摘採時期における巻葉発生数（枚/m²）を調査しました。

	つゆひかり	おくみどり
農薬散布区	2	7
散水区	2	9

調査期間 令和5年5月16日～6月2日

散水区の巻葉発生数は農薬散布区とほぼ同数でした。屋久島でも、チャノホソガの産卵時間を重点に萌芽期～2葉期に間断散水を行うことで、三角巻葉の発生を抑制できることが確認できました。

5 散水防除のメリット

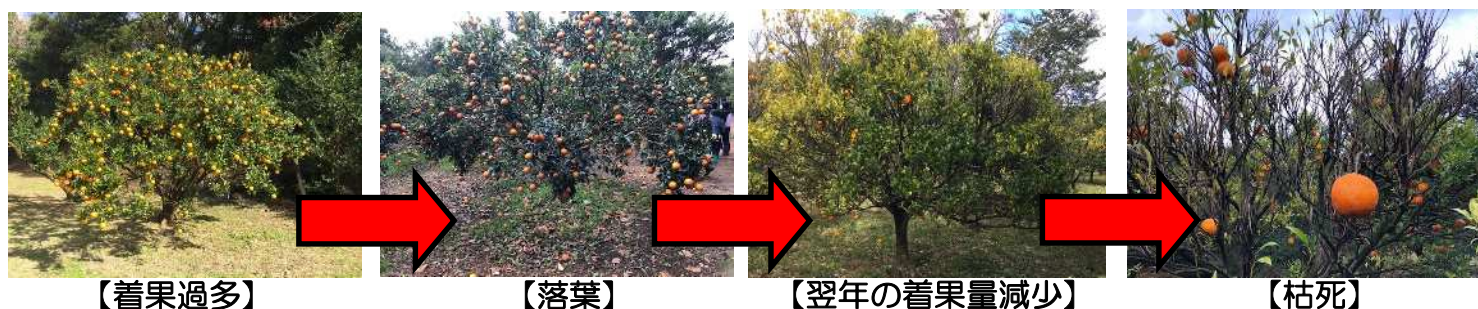
散水を活用して防除することにより、農薬や作業に係る人件費のコストを削減できます。また、農薬に頼らない防除体系を積極的に取り組むことによって、消費者へ安心安全をアピールできます。

（担当：片山）

新しい摘果基準で隔年結果を改善しましょう！

1 ぽんかん・たんかんの生育状況

令和4年産のぽんかんは、台風による落果で収量が減少しました。一方、たんかんでは着果過多による、樹勢低下や落葉が見られました。カンキツは一度隔年結果を引き起こすと、元の状態に戻すには数年以上かかり、ひどい場合には枯死します。連年安定生産に向けて、次項で紹介する管理に取り組みましょう。



2 新しい摘果基準は「最終着果量18果/㎡」

適正着果量は、毎年安定した収量を確保しつつ、樹勢維持を図る上で重要な指標です。従来の方として、葉果比（葉の枚数に対する果実の着果）や果実肥大（時期別の果実の大きさ）がありますが、着果量の把握は容易ではありません。そこで、新たな摘果基準として「最終着果量18果/㎡」を作成しました。

時期別樹容積1㎡当たりの着果量 (個/㎡)		
7月上旬	9月上旬	10月中旬
24	20	18

表 適正着果量の指標



図 適正着果量の算出方法

適正着果量の算出方法を例にとって説明します。

幅2.5mで高さ2m（地表から裾部の40cm部分を除く）、無効樹冠容積の1m、高さ1mの樹の場合では、上図のように算出します。有効樹冠容積が8.05㎡となり、これに適正着果量の指標18を掛けると、適正着果数145個となります。このようにモデル樹を園地内で1本作成すると良いでしょう。

3 屋久島たんかんを残すために

屋久島のたんかんは、全国1位の生産量を誇っています。しかし、現状を見ると、老木園や放任園が散見され、このままでは衰退の一途をたどってしまいます。今後の産地維持のためにも、園地整備や改植などをご検討下さい。皆さん一人一人の経営が屋久島の果樹産地を支えています。

（担当：下村）

子牛発育のしくみと育成マニュアル

1 はじめに牛の消化のしくみについて

「子牛の育て方は難しい」ベテランの生産者でさえそう感じます。これにはちゃんと理由があり、**牛は消化のしくみが子牛の間に切り替わるのが要因のひとつとされます。**

牛は反芻動物といわれ、第1胃と第2胃（ルーメン）の微生物の力を借りて、消化のしにくい牧草を分解できるようになります。**生まれて半年くらいの子牛は、この消化のしくみがまだできあがっていません。**

このルーメンによって、牛は体温調整の一部をまかなうほか、牧草や穀物など食べ物の変化や、少々の悪性の細菌などにも対応できるようになり、体の抵抗力がましてきます。

子牛のルーメンの機能が未発達で、子牛の抵抗力が最も弱い時期である**出生から5月齢までの初期発育を、適正な飼養管理をして発育停滞させないことが子牛育成の最大のポイントです。**

2 マニュアルは子牛の発育に合わせてある

子牛育成マニュアルは、こうした子牛の発育に必要な栄養と消化の仕組みに合わせて作られています。子牛発育の初期は「粗飼料」を分解する消化のしくみができあがっていませんので、濃厚飼料が主体、後半はルーメンができあがるので粗飼料主体となります。

給与量はあくまで基準であり、子牛によって食べる個体差もあります。**最も大事なのは「濃厚飼料と粗飼料の割合」**です。

この割合を守って給与し、残餌の量を確認しながら**「同じ割合で混合して」増減することがポイント**になります。

3 子牛の初期発育の環境を整えること

子牛の初期発育をうまく行うためには、**環境の整備が必要です。**写真のように親の飼料を盗食するような環境では、消化できない粗飼料が下痢の原因にもなります。衛生的で、子牛が分離できる環境を整えましょう。



また、下の写真のように**1～2ヶ月齢で粗飼料が大量に入ると、消化ができません。**初期発育では写真のように（濃：粗）9：1の



割合を守ることが大事です。子牛発育のしくみを理解して、飼料給与をもう一度見直しましょう。

（担当：新川）

去勢	ルーメンができるまで (消化のしくみが未完成)					ルーメンができてから (消化の仕組みが完成)		
	1ヶ月齢	2ヶ月齢	3ヶ月齢	4ヶ月齢	5ヶ月齢	6ヶ月齢	7ヶ月齢	8ヶ月齢
濃厚飼料(kg)	0.1	1.7	3.0	3.5	4.5	4.0	4.0	4.0
乾草(kg)	0.015	0.2	0.3	1.3	1.5	3	3.5	4.5
混合割合 (濃:粗)	9:1			7:3		4:6		
給与飼料	えづけ飼料			育成用飼料				

『サツマイモ基腐病』の対策（屋久島ver.）

1. 今さら聞けない・・・「基腐病」ってなんだっけ？

原因となる菌は**糸状菌（カビ）**です。植物の病気のなかで糸状菌（カビ）が原因とされるものは8割以上あり、うどんこ病・灰色カビ病・べと病などがあります。



株元の黒変



初期発病株



茎の黒褐変



地上部の枯死



塊根の腐敗

株元から茎が黒くなり、だんだんと葉や茎が黄色や紫色に変わります。病気の進行につれて茎や葉は枯れます。また、基腐病に感染した芋は、なり首（茎の付け根側）から腐敗していきます。

今のところ、基腐病に対する特効薬が少なく、農薬散布による防除が難しいです。また、雨水等で孢子が拡散されることで周りのサツマイモにどんどん広がっていきます。

2. 屋久島で挑戦中の基腐病対策

①新農薬「フリントフロアブル25」

基腐病に効果の高い「アミスター20フロアブル」と同系統の農薬が「かんしょ」「基腐病」で適応拡大しました。植え付け前に土壌散布&混和することで、土壌中の基腐病菌の菌密度を下げます。屋久島だけでなく、県内の各サツマイモ産地でも試験中です。

②基腐病抵抗性品種「みちしずく」

焼酎の原料用サツマイモとして、基腐病に強いとされている「みちしずく」という品種の栽培を推進しています。新しい品種なので、屋久島の気候に合っているかどうかを検証しています。

③屋久島での理想の栽培時期の検討

一般的なサツマイモの定植時期は4月からですが、それを梅雨時期の6月下旬にズラすことによって初期の苗の活着を促進させます。それによって初期の生育が良くなり、夏場の高温・乾燥による枯死を防ぐことができます。

もちろん

基本的な3つの対策

「持ち込ませない」、「増やさない」、「残さない」対策を徹底する！

①畑に菌を「持ち込まない」対策(健全苗の確保),②畑で菌を「増やさない」対策(排水対策, 発病株の除去, 適期の薬剤散布),③畑に菌を「残さない」対策(残さ対策)

屋久島の農業農村整備

農家の所得向上や農地農業用施設の防災減災のため計画に基づいた整備を行います。

畑地かんがい



永久保畑かん

農道整備



尾之間農道

農業用排水路整備



高平排水路

給水栓更新

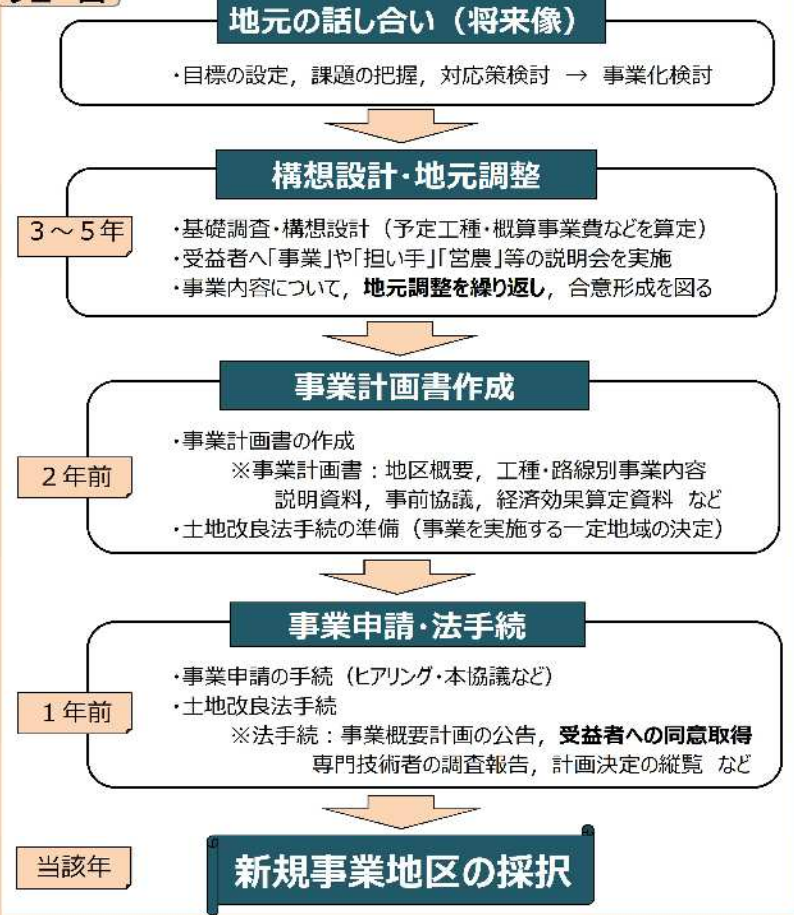


（水田用）

（畑・樹園地）

新規地区採択までの流れ

フロー図



◇ 新規地区の採択には、地元調整や同意取得などに時間を要することから、早くて3～5年かかります。

「新規地区採択までの流れ」参照→

◇ 日頃より、各集落・組織において、要望に基づく話し合いをお願いします。

鹿児島県の農業農村整備についてはコチラ



鹿児島県の
農業農村整備事業

QRコード又は「鹿児島県 農業農村整備」で検索

種子・屋久の農業農村整備についてはコチラ



種子島・屋久島の
農業農村整備事業

QRコード又は「熊毛支庁 農業農村整備」で検索